くらがの

発行所　倉賀野神社
〒370-1201
群馬県高崎市倉賀野町 1263 番地
電　話　027-346-2158
ＦＡＸ　027-346-2184
例祭（秋季大祭）　10 月 19 日
春季大祭　4 月 19 日
公式ホームページ　www.chinju.info/

巻頭謹言

宮司　髙木直明

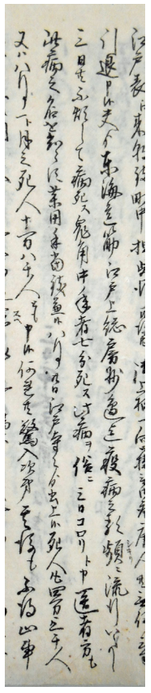
三月、境内では「國魂の池」のほとりにユスラウメの蕾がふくらみ、丸庭にはハクモクレンが開花しました。四月を迎え、今朝は満開のソメイヨシノが参拝者を出迎えています。

日々刻々と新型コロナウイルスのニュースが伝わりますが、不安をよそに四季はめぐります。

神主の日記に見る疫病流行

朝拝では疫病鎮静の祝詞を奏上します。幕末の頃、飯玉宮（現在の倉賀野神社）の神主高木出雲が書いた『御納戸日記』のことを思い出しました。安政五年（一八五八）の夏に、「三日コロリ」が流行したことが書かれていました。コレラです。

日記をめくると「医者方も此の病の名を知らず、薬用手当いたしかね候。」「八月ひと月の死人十万八千人」と、江戸の惨状が伝わってきています。



『御納戸日記』
（安政５年）

これまで傍観者の立場で見ていたことですが、今とても他人事とは思えません。

人々は病原菌を知らなかった

中山道の倉賀野宿でも一人、二人と患者が出始めたので、八月二十六日から二夜三日にわたり「産子安全」のため「鎮火祭」を執行したといいます。弓の弦を手で引き鳴らして邪気を祓う「鳴弦加持」の祈祷をしたとも書かれています。

当時、コレラ菌はヨーロッパでも未知の病原菌でした。人々は治療をする術も、予防する手だてもなかったのです。

獅子舞が巡回してお祓いする

続いて九月三日から四日にかけて、田子屋町から宿内へ獅子舞が出ました。三日の夜に「鎮守より獅子振り始め」とあり、宿内の三つの神社の神主と山伏が先頭に立ち、三頭の獅子が上町の飯玉宮を出発しました。獅子に続いて「町内若者凡そ三十人ほど白張を着、幣帛を持ち、町内祓候処、惣町より頼まれ、宿内軒別に祓」とあります。「惣町」から要請されて、倉賀野宿の家々を一軒ごとにお祓いして回ったというのです。

田子屋は倉賀野宿の中心近くの町名で、今も残る獅子倉の長持には宝暦五年（一七五七）の墨書があると聞きます。そして天下一角兵衛流という獅子舞は今に伝承されています。

「病患退散致し、安穏に相成り候」

お祓いは翌四日の朝ようやく「相済」となり、日記は「宿中、門松立て、三日正月致し祝い申し候。その後は病患退散致し、安穏に相成り候。」と結んでいます。

時を隔てて医学がこれほどに進んだ現代。私たちの体は自然の中に生きているということ、そして自然を意のままには操れないことを、ここに思い知らされました。徒手空拳であった安政の人々がどのように疫病と対峙したか、いま改めて見直すべき時かもしれません。

感染拡大防止のためには他者との物理的な距離を保つこと。しかし気持ちはけっして孤立することなく、互いに誰もが笑顔と思いやりの心を忘れずにありたいものです。皆様の上に神様の慈しみが遍くゆきわたり一日一日を無事息災に過ごされますよう衷心より祈念いたします。

六月三十日　夏越大祓
疫病退散の「茅輪くぐり」

毎年、六月三十日に神社で「夏越大祓」の神事がおこなわれます。参道に設けた茅輪を神職に続いて参列の人々がくぐり、穢れや災いを祓い除ける神事です。

「茅輪」については、『備後国風土記』逸文に次のような説話があります。

※　※　※

むかし、牛頭天王という神様が南海の地方にお出かけになった。そこで一夜の宿をお求めになった時、兄の巨旦将来は裕福なのにその願いを断ってしまった。弟の蘇民将来は貧しいながらも粟飯を供して丁重におもてなしをした。神様は蘇民の家を立ち去る時に「いつか疫病流行がこの地を襲うことがあるだろう。そのときには、茅で輪を作り、それを腰に付けていれば災厄を免れることができる」と言い残した。やがてその通りのことが起こり、蘇民将来の一家だけが生き延びて、のちも末永く繁栄したという。

※　※　※

もとは腰に付けたという茅輪は大型化して、今日では夏越の大祓のときに人々が八の字に輪をくぐり、無病息災を祈念するようになったといいます。

ところで大祓式は、神社で年に二回おこなわれます。六月三十日は夏越大祓、十二月三十一日には年越大祓があり、身に付いた災いの元を半年ごとに祓い清めるという意味があります。

大祓式にあたり、参拝者は家族の名をそれぞれに記した形代（ひとがた）をもちより、祓い除けを祈願します。あわせて『大祓詞』という古来の祝詞を一同で御神前に奉唱する習わしがあります。

身代り形代

なお「夏越の大祓式・茅輪くぐり」は今年も六月三十日の夕方六時を予定しています。くわしくは社務所にお問合せください。

☎027（346）2158

「無病息災・交通安全」
茅輪の守護札

神社総代会の奉仕活動

神社の行事は一年を通して総代会の御奉仕により支えられています。

写真は一月十五日の「北向道祖神大祭」の一コマ。この日の早朝、古神札のお焚き上げ・どんど焼きが始まりました。

「古神札納め所」の臨時テントは、古い御神札、お守り、お正月の松飾り、ダルマ等で満杯になっています。「どんど焼き」は、神様からお護りいただいた御恩に感謝する行事です。古神札のお祓いを行った後、高崎消防十七分団の協力をいただきながら総代の皆さんがお焚き上げの作業にあたります。

特に、ダルマには土底がついているので、これを叩いて落としてからでないと燃やせません。写真は皆で手分けしてその作業をしているところです。

なお、ガラスなどの不燃物や危険物は勿論のこと、ぬいぐるみや、人形、カレンダー、位牌などは、「どんど焼き」のお焚き上げ対象ではありません。ご不明の点はどうぞ社務所にお尋ねください。

編集後記▽四月十九日の春季大祭は、ウイルス感染予防のため神賑わいの行事を自粛し、御社殿の中で神職だけが奉仕することになった。▽「3密を避けよ」「3密はダメだ」と皆がいうけれど…。仏教でいう、尊い「三密」という語がつい連想されて、仏さまに怒られないかと神主は心配になる。▽ともかくも密閉、密集、密接を回避すること。▽国内は勿論のこと、どうか世界の諸国で悪疫流行が鎮静化し、経済も壊れたりしませんように。何より子供たちのために一日も早く学校が再開されますように。地域の私たちに、何ができるのか考えたい。（直）

冠稲荷 初午大祭　盛大に

境内の冠稲荷神社の「初午大祭」が今年も二月十一日におこなわれた。

＊　＊　＊

午前十時に冠稲荷さま御社殿の前で神事がはじまり、宮司が祝詞を奏上。総代会や氏子、来賓の人々が神前に玉串をそなえて拝礼した。

続いて神楽殿で巫女舞の奉納や、福投げの行事が始まった。舞姫の倉賀野小学校五年生２人が浦安舞、三年生３人が豊栄舞を奉納。また福投げでは、申込のあった22名の福男・福女が「福は内、福は内」の掛け声高らかにお菓子などの福を撒いた。

御社殿前の神事

小学五年生の浦安舞

福投げ行事

境内では紙芝居の前に子どもたちが集まった。普段から「民話の語り」ボランティアに携わる下町の齋藤滋子さんにお願いして、創作紙芝居『大国主神の冒険』を上演した。

恒例の湯立神事もおこなわれた。竹を立てて囲った中に大釜の湯が沸き立っている。参拝の人々は列に並び、湯けむりを浴びて無病息災を祈った。こうして神賑わいの諸行事は正午ごろにめでたく全て執り納めとなった。

＊　＊　＊

冠稲荷さまは、もともと倉賀野宿の中心部の横町に鎮座した神様で、江戸時代は「三光寺稲荷」ともよばれ人々の崇敬を集めた。旅籠の遊女が四石玉垣や灯篭を奉納している。明治神社に合祀され、横町にあったもとの神社は廃祀となり、建物は撤去された。しかし地元の人々の願いにより昭和十年に復祀され、再び社殿が建てられ今は至っている。その横町冠稲荷さまでは毎年四月八日に祭礼がおこなわれている。

なお明治四十二年の廃祀後に撤去された古社殿は、前橋市川曲町に買いけられ、分解して運ばれて再建され、その地に諏訪神社の御社殿として現存する。

＊　＊　＊

むかしから暦の上で二月の初午の日（最初の午の日）が京都の伏見稲荷を始め全国のお稲荷様の祭日とされている。初午の日はその年によって日にちが変わるけれども（ことし令和二年では二月九日）、倉賀野神社の冠稲荷さまでは、毎年、祝日の「建国記念の日」をお祭りの日と定めて祭典をおこなっている。

紙芝居の一コマ

創作紙芝居『大国主神の冒険』を上演

令和二年冠稲荷初午大祭
●「福投げ」特別御奉賛●
第一屋製パン株式会社　様
高崎森永株式会社　様
株式会社原田　様
株式会社キノコ輪大　様
今井菓子店　様

その他たくさんの皆様に御奉賛をいただきました。

湯立神事

回顧「令和の御大礼」と倉賀野神社

▼平成三十一年四月十九日　春季例大祭の日に、あわせて「天皇陛下 御譲位御安泰祈願祭」を斎行。参列者一同は平成の御代を顧みて感謝の誠を捧げるとともに、天皇陛下（現 上皇陛下）が御安泰に御譲位遊ばされるよう神前に祈願した。

▼令和元年五月一日　一日早朝の月次祭のときに併せて「践祚改元奉告祭」を執行。新天皇が即位され、元号が令和と改まったことを御神前に奉告する儀である。

参拝者にお祝いのお赤飯が配られた。社頭には「奉祝記帳」の受付所が設けられ、五日間で一四二名の記帳が寄せられた。また「令和御大礼・記念御朱印」の授与をおこなった。

▼五月二十五日、二十六日「御大礼奉祝・天明神輿神幸祭」を斎行。二十五日夜の浄闇のなか、お神輿に「みたま遷しの儀」、翌二十六日早朝に発輿して、倉賀野町内の御旅所三ケ所に車上渡御、つづいて御旅所四ヶ所に行列の渡御が丸一日かけておこなわれた。各地区から選ばれた青壮年の輿丁（担ぎ手）をはじめ百二十余名が行列に参加。神輿を出迎える大勢の人々と天皇陛下の御即位をお祝いした。

天明神輿神幸祭の渡御行列

▼六月二十五日「御大礼奉祝・御田植祭」を境内の神饌田で斎行。秋には国を挙げて「即位礼」の儀式がおこなわれる。その日の御神前にお供えできますよう、豊かに稔りますようにと祈念した。ことしも倉賀野中生徒有志が奉仕した。

御田植祭の神事

▼十月「御大礼記念・御本殿屋根替事業」総代会が氏子各戸にお願いして回る募金活動が始まった。市指定重要文化財の御本殿の屋根は、昭和十二年に従来の柿葺きから銅板葺きに葺き替えられたもの。以来八十二年が経過し劣化が進んでいたため、令和の御大礼記念事業として大修理を行うことになった。（その後、多くの氏子崇敬者皆様のご奉賛を有り難くいただき、おかげ陰をもちまして今夏、着工のはこびとなりました。）

▼十月十九日　秋季例大祭。併せて「天皇陛下即位礼奉祝大祭」を執行。天皇陛下が国の内外に即位を宣明する「即位礼正殿の儀」が十月二十二日におこなわれるにあたり、秋の例大祭を奉祝行事として斎行。

この日、中学生神輿の渡御行列では生徒たちが「奉祝令和」の提灯を手に大進した。

御即位を奉祝する中学生神輿

▼十一月十二日「大嘗祭前二日大祓」大嘗祭の二日前に、全国の神社で臨時の大祓が斎行された。御一代に一度という厳粛な皇室神事を前にして、いわば国全体を祓い清めるための儀式で、倉賀野神社では午後三時から宮司による大祓詞の奏上がおこなわれた。

▼十一月十四日「大嘗祭当日祭」大嘗祭の当日、午前十時に総代会や氏子崇敬者等が昇殿。群馬県の営農者から皇室に献上されたという「庭積の机代物」に準じて、リンゴ、コンニャクイモ、ヤマトイモ、シイタケ、小麦の五品目を神前に特別にお供えした。この日もお祝いのお赤飯が配られ、社頭には記帳所が設けられた。

一般公開された皇居東御苑の大嘗宮を拝観（１１月２８日 宮司）